

JBCF

JAPAN BICYCLIST CLUB FEDERATION

一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟

**2016年度事業活動方針
発表会**

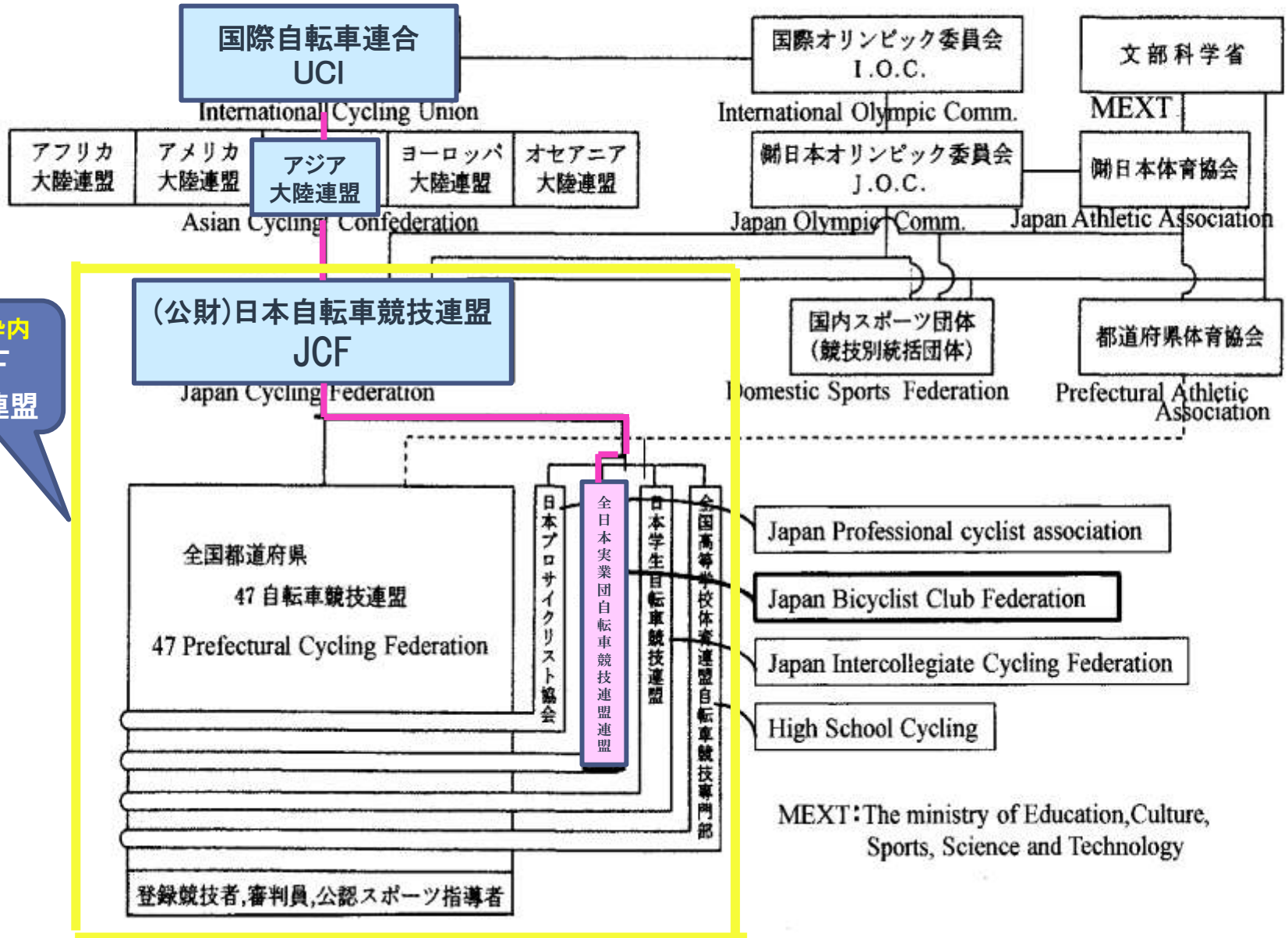
於:目黒自転車総合ビル
2015.12.12

2016年度 JBCF事業活動方針発表会

■次 第(午後の部)

- | | | | |
|----------------------------|-------------|---------|------|
| 1. 開会の挨拶 | 13:00～13:05 | 理事長 | 斧 隆夫 |
| 2. 2016年度 事業方針、計画 | 13:05～13:25 | 理事長 | 斧 隆夫 |
| 3. 2016年度 Jプロツア-登録チームの発表 | 13:25～13:30 | 理事長 | 斧 隆夫 |
| 4. 2016年 レースカレンダー-案発表 | 13:30～13:35 | 事務局長 | 小黒一弘 |
| 5. 2016年 Jプロツア-広報活動案発表 | 13:35～13:50 | ゼネラル・D. | 丸田貴之 |
| 6. 2016年 JBCF GUIDE 変更点の説明 | 13:55～14:00 | 事務局長 | 小黒一弘 |
| 7. 2016年チームのプレゼンテーション | 14:05～14:55 | | |
| 8. 質疑応答 | 15:00～15:20 | | |
| ● 交流会 | 15:30～17:00 | | |

An Chart of Japan Cycling Correlatiog Federation



黄色枠内
JCF
構成連盟

JBCF 基本方針



**JPT〈Japan Pro Tour〉を日本トップカテゴリーの
最高峰ロードレースとして、その価値を高める**

**それがプレステージを高め、オリンピックを目指すうねりが
ファンを創出、競技人口の拡大に繋げる
クラスタ制度とランキングで
実力と魅力ある連盟運営
よってロードレースをメジャースポーツに近づける**

JBCF 47年の歩み

- 1966年6月 日本自転車工業会(現自転車協会)・自転車産業振興協会支援で
“第1回自転車業界親善ロードレース大会”が実車連の前身としてスタート
- 1967年3月 日本自転車工業会・企業が中心となり”全日本実業団自転車競技連盟”創立
- 1968年3月 通産大臣旗下賜“通産大臣旗・第1回全日本実業団対抗ロードレース大会”開催
- 1972年～ 実業団からオリンピック選手多数輩出、モントリオールで長義一 6位入賞。
その後毎大会選手派遣。
- 2001年 加盟チーム128チーム、加盟登録者数1122名、初めて1000名を超える。
- 2011年1月 従来の任意団体から“一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟・JBCF”
となる。連盟の基盤強化 連盟方針“JPTの価値UP”目指しスタートする。
- 2011年3月 事務局スタート直後、東日本大震災で中止大会あったが代替、追加で完遂。
- 2011年 連盟法人化後、加盟登録者数2000名を超える、10年で倍増達成。
- 2012年～ コンチネンタルチーム、地域密着・貢献型チームの増加傾向加速。
- 2016年～ 2016年は、JPTでUCIコンチネンタル9チーム申請、全チームJBCF登録する
JPTレースのTwo In One レースは8開催、24レース(13会場)となる、JET43
レース、JFT40レース、JYT4レースと開催拡大・向上へ。
公道レース、ステージレースなど、UCIレース導入の布石へ。

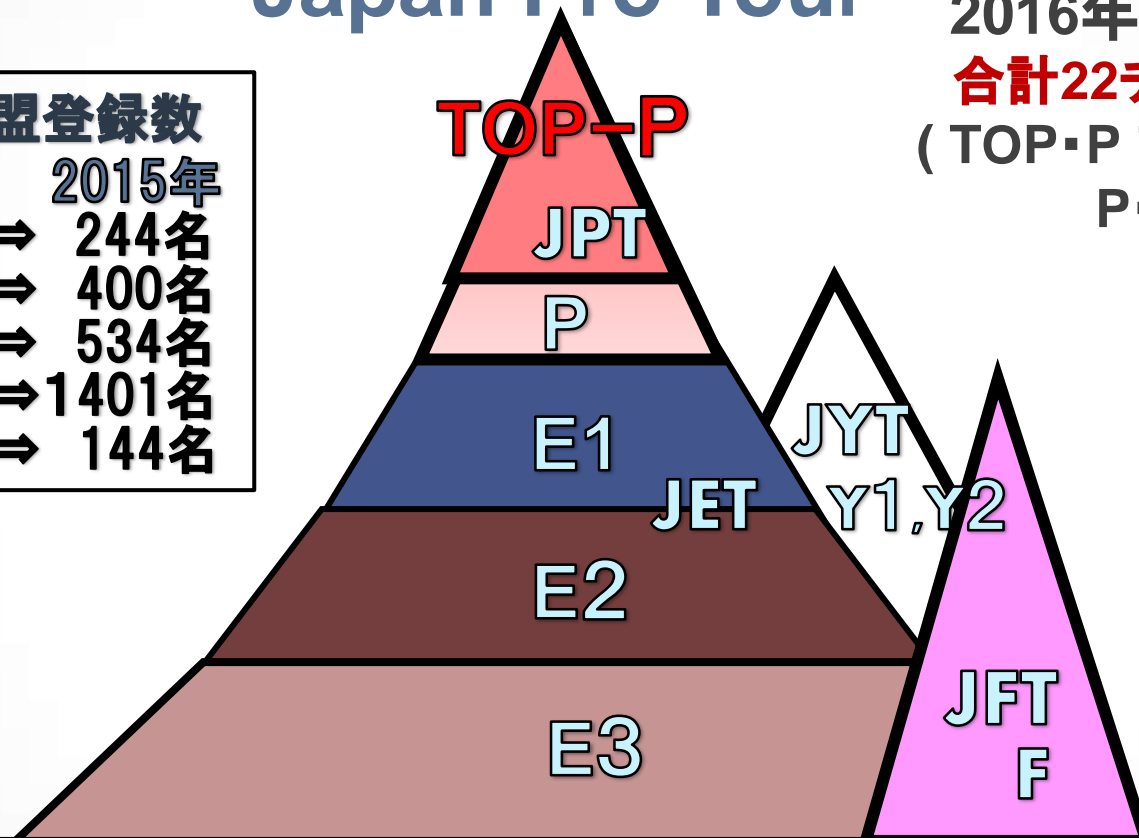
JPT を日本国内トップカテゴリー-最高峰の ロードレースとして、その価値を高める

Japan Pro Tour

2016年は
合計22チーム
(TOP・P 10チーム
P・12チーム)

クラスター別加盟登録数

	2014年	2015年
P1	228名 ⇒	244名
E1	368名 ⇒	400名
E2	501名 ⇒	534名
E3	1270名 ⇒	1401名
F1	110名 ⇒	144名



エントリーライダーも含むツアーのハードルを下げ底辺拡大

2011～全日本実業団自転車競技連盟活動方針

魅力ある連盟（競技で楽しく、見て愉快、目指すはJPT.世界へ）

●メジャースポーツの仲間入り（魅せる試合、やる試合へ）

JPTの進化：価値創造、Jツアー制度ステップアップ、国際化（UCIレース）
環境に優しい行動、新組織連携、行動の醸成（情報共有）
スピーディな競技運営、役員JBCF資格制度

●情報発信力の向上

広報強化：メディア露出（変化に対応）（広報委員会の重点課題）
IT駆使しリアルタイムな情報発信
連盟HPコンテンツ充実、動画の制作等

●事務局活動の変革 常駐によるサービスへ

Web活用：窓口業務の改善（ご意見メール、登録、エントリー）
新管理システム余裕捻出（戦略垂直統合システム、DB進化）
連盟情報伝達のHP活用（要項、コミュニケ、ランキング等々）
各種会議の定期化、会議効率化

2016年 JBCF活動方針

魅力ある連盟 より高く 50周年準備の年・・・愚直に実行

Japanese Way メジャースポーツ化・世界めざす

1. *Japanese Way* が価値を向上させる
多様性の融合が海外模倣、同一性を凌駕

2. 情報発信力の充実がツアーの向上を招く
メディアミックス・即応・頻度・効果検証

3. オーガナイザー 機能の充実(事務局)
Web・IEの活用・データベース駆使のサービス展開

2016年 JBCF活動方針

1.メジャースポーツへの躍進(スターを輩出、魅せる、楽しいレースへ) *Japanese Way* でツアーを進化させ:JPT価値向上

- JPT進化**
- 企業・地域貢献・クラブ型各種チームの融合、シナジーを生む
 - UCIコンチネンタル国内**全9チーム登録**、国際大会参加枠獲得へ
 - チーム法人化**を義務づけ、選手、チーム、連盟の保護、安定化
 - JPT登録ステータス**なし、チームの運営責任と運営能力向上
- 大会運営**
- Two In One** 大会へ、日本でのレース最適化、露出、公道使用拡大
 - ゼネラルディレクター**誕生で横串、開催基準推進で大会魅力・価値
 - 競技役員のステップアップ(プロツアーに相応しい、らしさ、スキル)
 - 新規開催(JPTはTwo In One大会集約、他クラスは地域へ拡大)
- レース運営
と国際化**
- UCIレース**の開催・胎動(開催地との連携、国内で**UCIポイント獲得**)
 - ワイルドカード**活用で海外チーム・エリートトップチーム等で活性化
 - メディカル部会の連盟トップの直轄とし、レースの安全第一運営
 - 健康な連盟(A・ドーピング活動の周知、環境配慮、気品ある行動)

2016年 JBCF 活動方針

JPT *Japanese Way* チーム集合体

Japan Pro Tour

UCIコンチネンタルチーム

ファクトリー
チーム

地域密着
貢献チーム

クラブ型
チーム

その他と
JBCF等

Japanese Way 異質の融合がシナジーを生む

R. プロ選手
海外選手

セミプロ選手

フルタイム
ワーカー

多様な混在の中での実戦強化
JBCF5年の進歩

レース
参加

ファン
サービス

交通安全
社会貢献
大会開催

ワーク
スタディ

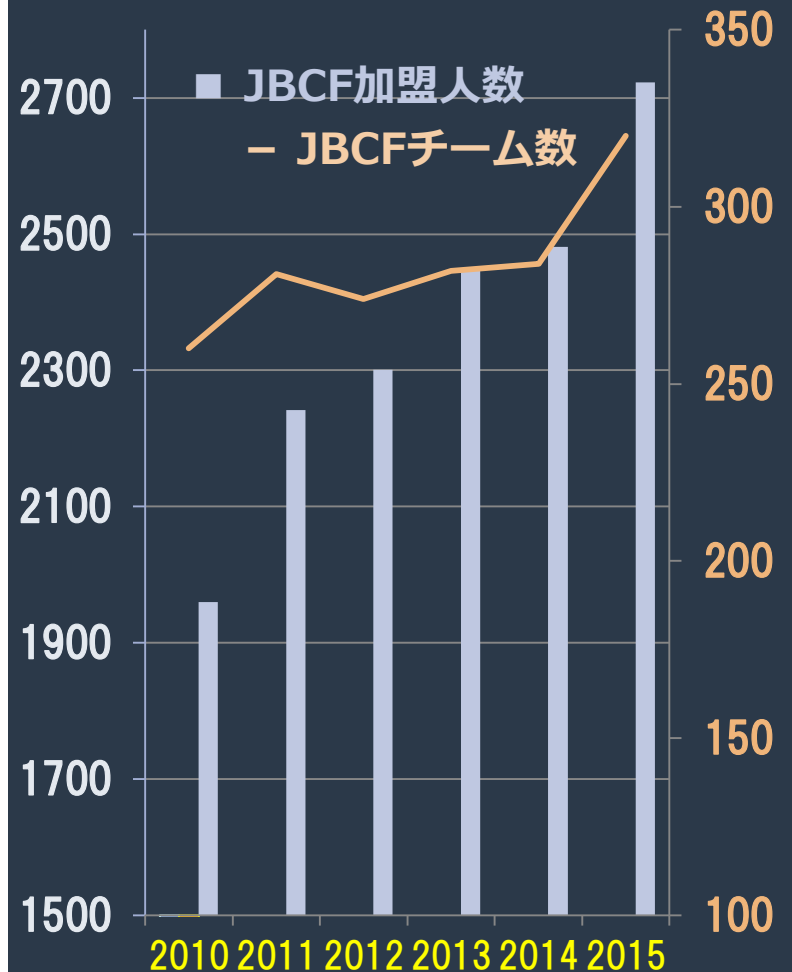
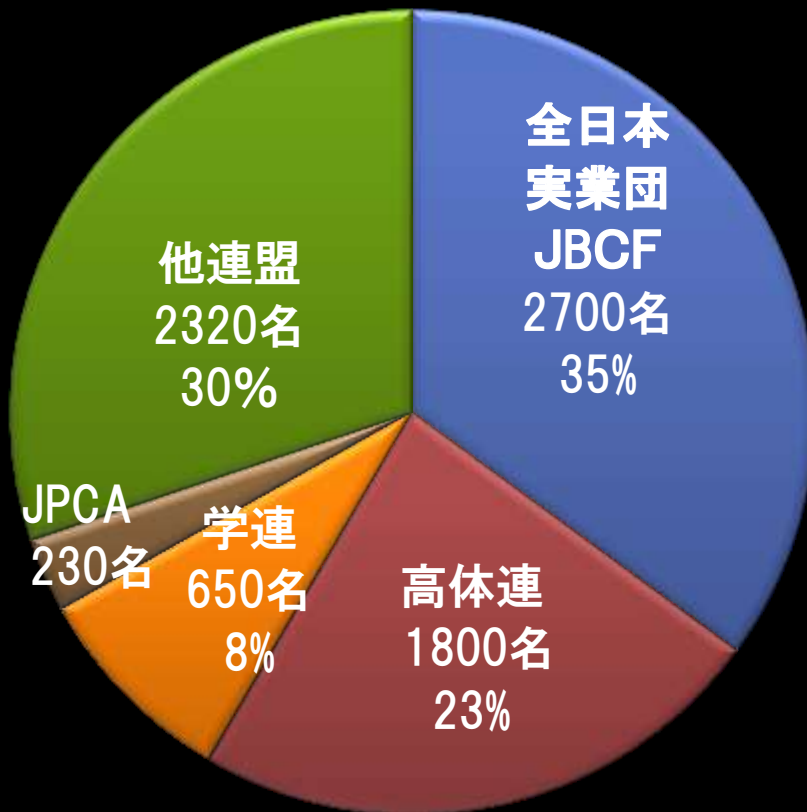
JCF登録者数の内訳 2016年度

JCF登録者数の内訳 2015年度

加盟登録者・チーム推移グラフ

JCF全国組織登録者分布グラフ

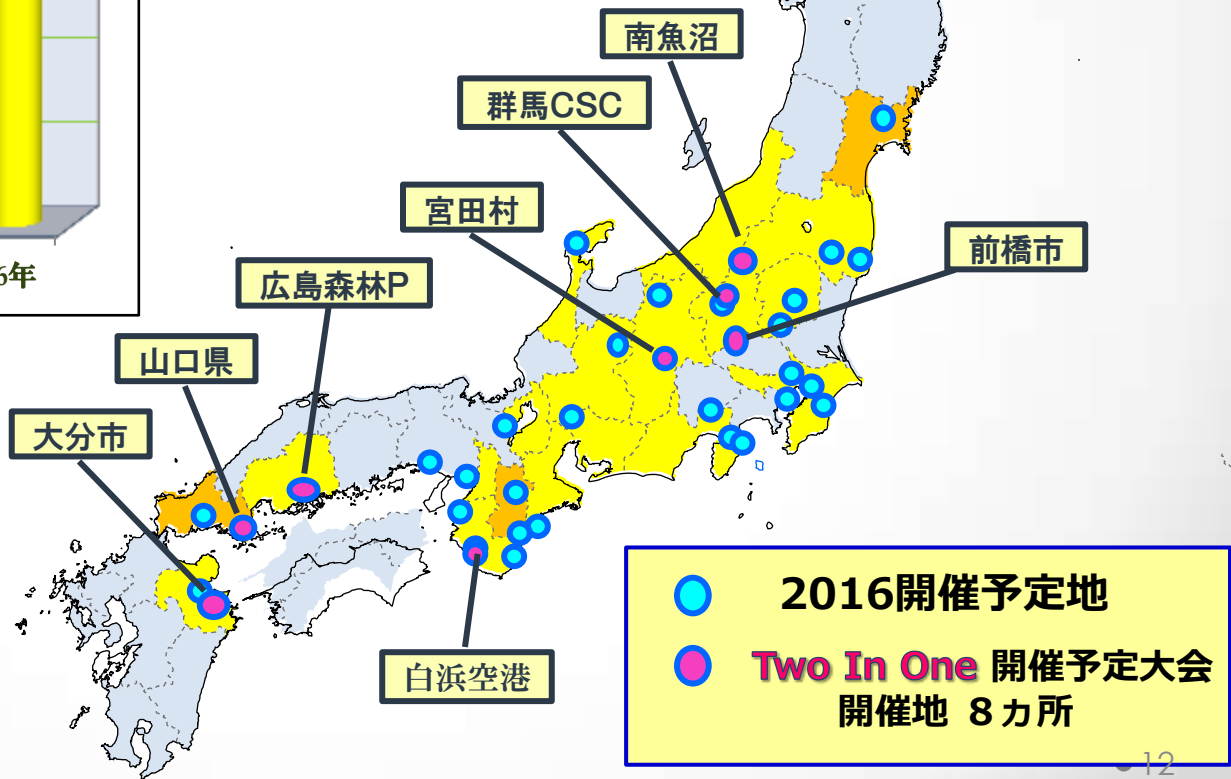
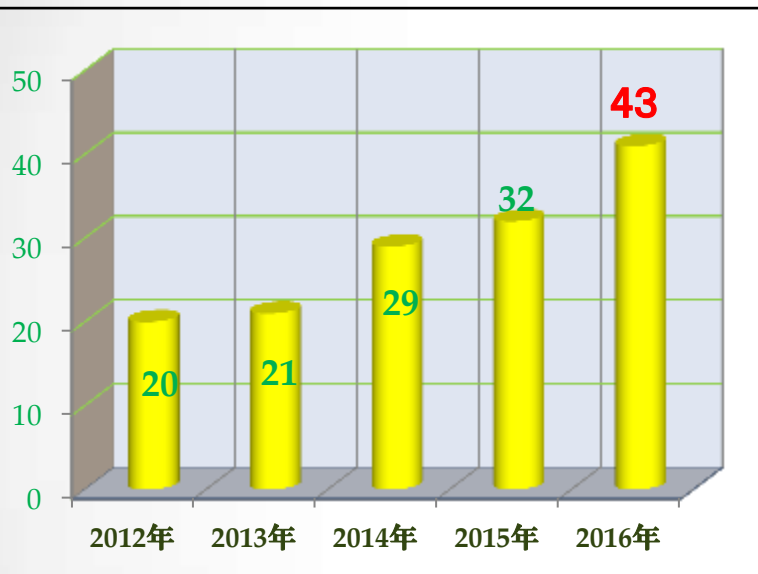
JCF登録者総数 7700名



2016年 JBCF 活動方針

2016年開催地 43カ所

全国各地でのレース開催拡大
Two In One レースを目指して



2016年 JBCF活動方針

2. 情報発信力の充実がツアーの向上を招く

広報強化:メディアへの露出(企画広報委員会の最重点課題)

露出度アップはメディア環境に対応(新分野開拓・モバイル等)

- メディア環境の変化をウオッチ・即応性・効果検証
- メディアミックスでIT駆使しリアルタイムな情報発信
- J Sports と制作協力**、毎大会ダイジェスト版、高質・即応
- 連盟HPの充実(公式サイトとファン誘導のJPTサイトも)

組織強化に**ゼネラル ディレクター制**を新設、

- ゼネラル ディレクターを選任、大会演出と露出のバランス
- 広報活動に投資・大会仕様の充実にスポンサーの支援

国内最大規模ロードレース シリーズ戦 「Jプロツアー 2016」 J SPORTSで全戦速報ダイジェスト放送！

Jプロツアー2016 概要

<Jプロツアー2016 とは>

JBCF（全日本実業団自転車競技連盟）が主催する日本のトップレーサーを決するシリーズ戦。2016年は国内20チームが参戦予定。3月の宇都宮クリテリウムで幕開けし、10月の最終戦おおいの道クリテリウムまで、日本全国を舞台に全22レースに及ぶ熱い戦いが繰り広げられる。各レースの獲得ポイントで争うのは、個人総合(ルビーレッドジャージ)、23歳以下の新人賞(ピュアホワイトジャージ)、団体総合優勝の3タイトル。



(左) Jプロツアー2015 年間総合個人優勝 畑中雄勇介 (チーム右京)
(右) Jプロツアー2015年間総合個人U23優勝 新城雄大 (那須ブルーゼン)



Jプロツアー2015 年間チーム総合優勝 チーム右京

<Jプロツアー2016 開催概要>

【シーズン】2016年 3月20日(日)～2016年10月30日(日) 14会場全22レース

<開幕> 2016年 3月20日(日) ①宇都宮クリテリウム

<最終> 2016年10月30日(日) ②おおいの道クリテリウム

※放送日時・チャンネルは未定です。
※放送内容は変更になる場合があります。

<J SPORTS「Jプロツアー2016」放送予定>

● 13会場全22レースダイジェスト放送 (各会場約5分)

※詳しい放送予定は別紙参照

● 11月末 総集編(60分) *再放送含め4回放送予定



Jプロツアー2015 第22戦 美浜クリテリウム 畑中雄介、優勝の瞬間

2016年 JBCF 活動方針 チーム登録条件(抜粋)

Jプロツアー-チーム価値の STEP UP

2016年JPT 加盟登録規定(抜粋)

- ・チームは**法人化**されており選手との契約関係が明確にされている
- ・チームは**加盟分担金(百万円)**を負担しており、参加料は全レース免除
- ・チームはロゴ・エンブレム作成、チームジャージ、チームカー等に活用
- ・チームカーをイメージデザインで露出、TOP-Pは会場により2台駐車可とす
- ・チーム名のプリントされた最低1個のチームピット(3×3m)を保有
- ・JPTチームスタッフはT・アテンダント講習、コーチ、指導員等**資格1名以上必須**
- ・登録人数は下限枠内の選手**4名から16名**・Min出走人数3名以上
- ・各チームは連盟の広報・宣伝活動に協力をする

2017~18年のプロツアーのイメージ

- ・**創立50周年**、新ステージへ、よりプロレースに相応しい運営レベルに進化
- ・厳選大会(Two in One)をJPTのレースとしツアー-戦(転戦)を展開
- ・上記にUCIレースの導入、連盟・チーム・選手の価値をグローバルに運用。

2016年 JBCF 活動方針

JPTの登録は、JPT年間ランキング上位15チームにシード権が与えられる。

2015年のシード権チームと非シードチームのJPT参入希望チームから総チーム数は20チーム選出する。なおエリートでTOP-Eとしてチーム登録条件を設定したチーム登録を起案中。

2015年10月10日(土) 2015年JPT参入チーム登録条件発表(HP・輪島M.M)

10月13日(火) ~JPT問い合わせ窓口開設

11月 1日(日) 大分クリテリウムJPT公式戦最終大会

11月 9日(月) ランキング上位15チーム確定、非シードチーム受付開始
(11月7日幕張クリテリウム、全日本トラックの結果も加味してよい)

11月20日(金) チーム登録申請締め切り

11月24日(火) 選考会議(JBCF理事会)

12月12日(土) 2016年連盟方針発表会(シード&選考チーム概要発表)

場所: 自転車総合ビル(予定)

時間: 11:00~12:00 チーム関係者、後援・協賛団体・競技関係者

13:00~14:30 メディア関係者・チーム紹介とチームプレゼン

2016年 1月 5日(月) 加盟登録受付開始

~1月31日(日) 加盟登録締め切り

3月20日(土) Jプロツアー第1戦開催(第3回宇都宮クリテリウム)

本日はありがとうございました

今後とも、より一層の

ご支援よろしくお願いいたします



JBCF

一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟

理事長 斧 隆夫

2016年度 Jプロツアー

JPT(Japan Pro Tour)

登録チーム発表



2016年度 Jプロツアー登録チーム

【TOP-P】

チーム NO.	UCI 申請中	チーム名
00		Team UKYO
01		マトリックスパワータグ
02		宇都宮ブリッツェン
03		KINAN Cycling Team
04		那須ブラーゼン
05		シマノレーシング
06		イナーメ信濃山形
07		Lemonade Bellmare Racing Team
08		シエルヴォ奈良レーシングチーム
09		ウォークライド・シクロアカデミア

【P】

チーム NO.	UCI 申請中	チーム名
10		愛三工業レーシングチーム
11		ブリヂストン アンカー サイクリング チーム
12		VICTOIRE広島
13		NEILPRYDE - NANSHIN SUBARU CYCLING TEAM
14		なるしまフレンド レーシングチーム
15		FIETS GROEN 日本ロボティクス
16		ACQUA TAMA EURO-WORKS
17		群馬グリフィン・レーシングチーム
18		<仮称> エルドロード東北
19		Honda 栃木
20		<仮称> VC Fukuoka
21		東京ヴェントス (新規申請チーム)